

むくらうつぶぢち はく
木田大時と箱めぎんちゆ

うぶぢち
大時 呼ばーになかい、 試しさわ

くんど
今度ーまた、 木田大時ぬう話う

かんげ
るやるぢち考ーみそーやーに、 尚

むくら うぶぢち
んぬきやびら。くぬ木田 大時 ぢし

しんをー まね
真王や。 さくと 尚 真王ぬお招き

しよーしんをー
えー、 尚 真王ぬ時代に、 船越前

むくらうぶぢち
に逢て、 木田大時ちよつと呼で来ー

がー じゆーしよ
川、 住所や。 んまぬ生まり成や

くしく
ぢち、 う城 にかい呼ばりやーに、

ん ぶくろ
ーに、うぬ生まり所ー船越前川や

あ あ
明かし物ー明かち取らしぢち話

はなし
んでる話やいびーしが、くぬ方や、

ひと はく
ーさびたくと、 一つの箱んかいかさ

うちなーじゆー しえんりがん
なー沖繩 中ぬ千里眼、またゆた

てー ふーじ
ぎぎんちゆーちえー入つてーる風儀

ゆーめい にんげんな
ぢち有名ぬ人間成やーに、世間ぬつ

い くぬ
やいびーん。入ったくと、 くぬ箱ん

ちゆ いっぺーあが
人からー杯 崇みらつてそーいびー

い くぎ
かいぎんちゆぬ幾ち居が、やー明かち

をーさま
れー、うぬ時にまた王様や、 尚 真

うちなー しきん まんちゆ
見で。やーや沖繩ぬ世間う万人ぬ

をーく
王やる如ーいびーん。うぬ尚 真王

しえんりがん うぶ
みーばぢち、 千里眼ぢち、 う取い

みんかん しきんばなしち
が 民間ぬ世間 話聞ちやーに、く

はなしち みみ い
持ちそーる 話聞ち、我んにん耳に入

たみ ぢち
れー 試し取らんでー。 世ぬ中なか

あ
りやーに、そーしが、 うり明かしゆ

むぬい い じんかにち
いゆくし物言ー言ち、銭金儲きーる

むん
ーする者やれー、なー、やーやみーに

にんげの そぼつ
人間ー処罰さんでー成らんでる

いっぺーしん
ん我ーがんなー、一杯信じーんどー

はなし ん
話ぬ出じやーに、 万がー、 木田

い むくらうぶ
んで言ちやくと、あんさーに、 木田大

時や、とー、うぬ箱んかいあんち

ったく。はー、とーなー、くれーみ

よー幾ち入っちょーが、やー明かち

ーにんでーむんなーんで言ーになか

見でんちさくど、なー、んちや、

い、一杯木田大時崇みーる次第や

真剣に考ーやーに、自分ぬ心ん

いびーしが、くぬ伝達ぬ早さぬやー

かい五ち、我ーがや入っちょーんでる

さい、とにかく早く、むし当たらんあ

見込み立とーいびーっさー尚真

いねー、首取いんでちぬ 相談やい

様、んで言ちさくど、はー、やーや

びーたん。さくど伝達ぬ極く早さぬ、

一ち入ってーるむんぬ五ち、やー

う供ぬ達、役人ぬ達やきさ死刑

や入っちょーんでち明かすが、やー

場んじ直ち 無ーやびらんやー。首

物ー違とーんでー。とーあんしえ

取ぬ無ーやびらん。くれーなー大事成

ー、開き見ち、証拠やくど、開き

とーんでち、尚真王や一杯物咎

う目掛きみそーちう賜みしえーびり

みしみそーやーに、斟酌しみそーち、

んち。なー尚真王やんまんかえー

はー、取戻しえー、くれー五ち入っ

臣下 集みやーになかい、逃する

ちよーくど、箱ぬ端側小なかい四

考ーんさん。開きたくど、んちや、

ちっ子なち、あんしあひやー添で五

端側小なかい赤ん子小が四ちっ

ち居くど、くれー本当ぬ沖繩ぬみー

子ぬ居いびーんで。かさぎあんちゆ入

ば、千里眼、くぬっ人ー 崇みら

わるやるんぢそーしが、きさ直ち無^{のーね}

どなち ^{そん} 村^{れきし} 歴史^{しら} 調べ^{むくら} たくと、木田

ーやびらん。あんさーに、なー、胴し^{どー}

うひやぢ ^{しそん} 大時^な ぬ子孫^な 成^な いしが、島流^{しまなが} しさー

じまいつし、とー、あんどんやれー、

に、^び 渡名喜部^{なちぶらく} 落^あ んじん明^あ かし物^{むね} ーさ

うりが罰^{ばちえ} ーなー我^わ ーがど被^{かん} じゆく

ーに、^{しえんりがん} 千里^ん 眼^{まが}、子孫^ん や生^か まり変^か ー

どやー。我^わ んねーあんしーしえー肝^{ちむ} ぬ

やーに、あまんじん^{あが} 崇^あ みらつて、また、

忍^{しほ} ばらんくど、玉御殿^{たまつげん} ぬ 左^{ひだり} ばら

^{そんけー} 尊^{そん} 敬^{けい} さつたん^{はなし} びるう話^{はなし} ん、^{どな} 渡名^な

んかい、骨^{ほね} しのー葬^{ほうむ} て取^と らしげぢ、

^ち 喜^{そんし} ぬ村^{そん} 史^し、^{めーん} くぬ前^{めい} 見^{けん} じゃびたしが、

遺言^{いご} ぬあいびーたんぢ。さーに今^{いま} 付^ま ち

くぬあたいみーばやてーさやーぢ、

きで、木田^{むくら} 大時^{おほとき} や、尚^{しやう} 家^け ぬう墓^{はか} よ

^{うちな} 沖^{おき} 縄^な ねー名^な 言^い る千^{せん} 里^り 眼^{がん} んめんし

ーさい、玉御殿^{たまつげん}、んまぬ 左^{ひだり} ばらん

えーてーさやーんぢ、^{かんさ} 感謝^{かん} する所^{ところ}

かい胴^ど ー人^{ひと} あいびーんぢ。くれー、古^こ

やいびーしが、^{てい} くりんーちぬ^{れきし} 歴史^し

老^{らう} ぬ話^{はなし} んやい、また^{また} 歴^{れきし} 史^し からん調^{しら}

^{けんきゆー} 研^{けん} 究^{きゆ}、また^{また} 昔^{むかし} ぬ親^{うや} づゝー^{ふじ} じから

びたくと、くぬ話^{はなし} ぬ書^か かってー居^{ぞう} い

聞^ち ちやる話^{はなし} やいびーん。

びーしがやー。あんさーに、またある

この話は、Bさんが沖縄語の研究に役立

時に、んまぬつ子孫^{こゝろまが} ぬまた、うれー

てばと、自身^{みづかみ} の音^ね 声^{こゑ} を提^{てい} 供^{きょう} して下^{くだ} した

詳^{くわ} しー事^{こと} ー我^わ んねー聞^ち ちやびらんし

ものを、文字^{もじ} に直^{ちか} して整^{せい} 理^り したものです。

が、^{どなち} 渡名^な 喜^き ぬ歴^{れきし} 史^し なかいあいびーん。

声^{こゑ} のため、文^{ぶん} 章^{しょう} は必^{かなら} ずしも整^{ととの} っています。

ある程度注^{ちゆう} で補^{おぎな} いました。録音^{ろくおん} の時^{とき} 期^き は一

九九一年です。

日本語のまま使われた言葉が幾つかあります。例えば「時代、住所、有名、人間、王様、民間、万が一、お招きに逢、一つの、真剣、自分、伝達、とにかく、古者、歴史、詳しい、子孫、尊敬、村史、研究」。このほか音便的な違いと思われる言葉もあります。例えば「千里眼（しえんりがん）、処罰（そばつ）、感謝（かんさ）」。

以下、（ ）は言葉の補足。丸番号の位置に置いてみると解り易い。その他「」などは解説。

この「で」は「んで」に同じ。文中に幾つもある。

現在の南城市玉城。

（大時が千里眼でる）

「成らん」が省略されている。

（大時がゆくし物言者ぢんやれーんぢぢ）

「呼ばーになかい」は「呼ばーに」に同じ。

じ。

「試しさわる」は「試ししわる」に同じ。

（大時や）

（王や）

（世間ぬ）

「つり」は「あんなちゆぬ数」の意。

（王が）

「集みやーになかい」は「集みやーに」に同じ。

他の物語では、大時も相談に加わって、もし間違えたら殺されてもよいと言ったという。

「直すん」は「直す。よくする（片付け始末する。）」「ここでは「殺す」。

役人は一匹入れたことを知っていて、大

時が5匹と言ったという情報が早く役人に伝わって、役人は箱の中を確認する前に、大時を連行して処罰（死刑）してしまつたという筋。

「崇みらわる」は「崇みりわる」に同じ。

渡名喜村史下巻590頁に、伝説として載っている。

参考

語られた話の筋の核心は、大時の眼前で箱の中を確認しないで、「お前は間違つた」として処刑された点にある。しかし、大時の眼前で確認したのでは、物語の性格が大きく変わってくる。一匹なら予言が外れて死刑、五匹なら予言が当たって当然で、いずれにしても、それだけでは物語の教育性に乏しい。Bさんの話は、大時の納得なしに処刑したが、大時が正しく、王に非があった筋になっている。

一方「長浜の民話」（読谷村民話資料集3）157頁によれば、大時の眼前で箱を開けたところ一匹であつたので、処刑された。大時の死は、大時の非によることになっている。渡名喜村史下巻590頁にある伝説も、大時が一匹を確認した後の処刑という点で同じである。

伝説には色々な筋があり、教育的意義に留意する必要がある。妬みや陰謀のことは他書にはあるがBさんの話にはない。

石川文一著「琉球の伝説集」（一九六六年）には、予言は三匹、首尾を整えた日本語の物語がある。

大時の死と予言の当否の関係は、教育的意義の重要な要素といえよつ。